



校訓「強く 正しく 明るく」 教育目標「ふるさとを愛し、夢の実現に向かって考動する児童の育成」
目指す児童像「強い子 正しい子 明るい子」

夢を持ち、多様性社会をしなやかに生きる ～南極料理人 篠原洋一さん講話から～その1

南極料理人の篠原陽一さんの話を直接聞く機会が2回ありました。以前情熱大陸にも出演された方です。(写真は講師プロフィール資料・講話資料より)

篠原さんは高校卒業後、和食店で厳しい修行を積んでいた19歳の頃、縁あって北海道大学の先生からオーロラの話聞き、「オーロラを実際にこの目で見てみたい!」と南極観測隊に入る夢を持ったそうです。それから、知り合った北海道大学の先生にその熱意を訴え続け、推薦を受け南極観測隊選考試験に臨んだものの、落選。失意の中、「1, 2回の失敗で諦めてどうする」と叱咤激励され、選考試験を受け続け3回目合格。第33次南極地域観測隊に越冬調理人として参加されました。夢を抱いてから実現するまで、仕事を続けながら実に10年。帰国後は、豪華客船「飛鳥」「飛鳥II」に和食調理人として14年乗船。世界12周、70カ国200都市、7つの海と7大陸を訪れたという経歴の持ち主です。その後、オーロラの美しさが忘れられず、第50次南極観測隊調理人として再び南極に立たれました。本当に実現したい夢があれば、諦めず、熱意を持って、夢に見合う努力を続けることを子どもたちに伝えていきたいですね。



ところで、最低気温-89.2度(ポストーク基地)になる南極は、常に危険と隣り合わせ。安全を担保するためには「急がず・焦らず・怠らず」「物事を俯瞰してみる癖を付けること」が非常に大切とのこと。安全主任だけに任せず、誰もが「集中」と「俯瞰」を繰り返しながら、「無事に仲間と帰還する」という確固たる意志を持ち、命を守ることに注力したと話されました。「気の合わない人や嫌いな人は必ずいるが、『仕事は最大限の助け合いをするチーム』。南極観測隊や宇宙飛行士チームでははじめは絶対にあり得ない」「多様な価値観を尊重し、多様性の社会を受け入れる」「怒りの沸点を高く、笑いの沸点を低くする」「決めつけない。寛容性と許容性をもつ」「メンタルが弱ると事故が急増する」など、経験から導かれた生きる上での金言が数多くありました。

授業の質を高める取組 ～教師間での授業公開ウィーク～

日常的な授業の質向上をめざして、校内研修での研究授業実施の他に、教師間での授業公開ウィークを設け、授業を相互に参観し学び合う取組を進めています。どの子にも分かりやすい授業になるように、課題提示の方法、発問や板書、教材・教具の工夫などを学び合っています。



文化の伝承 歳時記にまつわるあれこれ 「正月」



写真左上は獅子舞(ワゴコロHPより)。諸説ありますが、1400年以上前、インドから伝わり厄除けの縁起物とされているそうです。獅子にかまれると、「神つく」という語呂合わせからか縁起がよいとのこと。この機会に、正月ならではの「門松」「注連飾り(しめかざり)」「鏡餅」「お節料理」等について由来や用途等を調べてみるのもよいですね。



正月ならではの昔遊びといっすのは、すごろく、凧揚げ、羽子板、だるま落とし、カルタ、福笑い、こま回しなどです。このうちのいくつかは100円程度で買える物できるショップやディスカウントスーパーなどでも手軽に購入できるようですよ。



子供の頃、正月に友人と凧揚げをしたり、家族とカルタや人生ゲーム等のボードゲームをしたりした記憶は、今も温かく心に残っています。家族が揃いやすい正月に、昔ならではの遊びを家族で楽しみ、日本文化を伝承してはいかがでしょうか。

【昔遊びの数々】

1月25日(土)のPTA行事「鏡開き」でいくつか体験する予定です。